

# 古文 読解問題 「宇治拾遺物語」 検非違使忠明 ①

これも今は昔、忠明といふ檢非違使ありけり。それが若かりける時、清水の橋のもとにて京童部どもといさかひをしけり。京童部、手ごとに刀を抜きて、忠明を立てこめて殺さむとしければ、忠明も太刀を抜きて、御堂ざまに上るに、御堂の東の端にも、あまた立ちて向かひ合ひたれば、内へ逃げて、部のもとを①脇に挟みて前の谷へ躍り落つ。②部、風にしぶかれて、谷の底に、鳥の居るやうに、やをら落ちにければ、それより逃げて往にけり。京童部ども谷を見おろして、あさましがり、立ち並みて見けれども、すべきやうもなくて、やみ③にけりとなむ。

問一・次の文は「宇治拾遺物語」について説明したものである。空欄に入る言葉を語群の中から選びなさい。

「宇治拾遺物語」は（ア）時代初期に書かれた（イ）文学（集）である。作者は不詳で、『宇治大納言物語』に入らなかつた（イ）がまとめられたものだとされている。後世にも影響を与え、（ウ）が書いた「鼻」は「鼻長き僧の事」から着想を得たとされている。

## 【語群】

・平安 ・鎌倉 ・室町 ・物語 ・説話 ・隨筆 ・芥川龍之介 ・夏目漱石 ・森鷗外

問二・傍線部ア～オの動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

問三・傍線部①「脇に挟みて前の谷へ躍り落つ」の動作主として正しいものを次の選択肢から選びなさい。

ア・筆者 イ・忠明 ウ・京童部 エ・御堂の仏

問四・傍線部②「部、風にしぶかれて、谷の底に、鳥の居るやうに、やをら落ちにければ」を現代語訳しなさい。

問五・傍線部③「に」と同じよう用法で使われているものを次の選択肢から選びなさい。

- ア・いとよきことにこそあなれ。その宮は、いとあてに、けけしうおはしますなるは。（和泉式部日記）
- イ・この御社の獅子の立てられやう、さだめてならひあることに侍らん。ちと承らばや。（徒然草）
- ウ・思はざりしなり。巫山の雲、漢宮の幻にもあらざるや。」と繰り言果てしづなき。（雨月物語）
- エ・十文字にかけわつて、うしろへつと出でたれば、五十騎ばかりになりにけり。（平家物語）

# 読解問題「宇治拾遺物語」検非違使忠明①解答・解説

問一・ア 鎌倉 イ 説話 ウ 芥川龍之介

問二・ア いいける

…文の先頭・助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に変換する。

イ まちいたる

…「ゐ」は「い」に変える

ウ おさなきひと

問三・イ

問四・部が、風に支えられて、谷の底に鳥が止まるように、そつと落ちたので、そこから逃げていったのだ。

問五・エ